

北嶺中入学に向けて得意な算数・理科を伸ばし、国語・社会の苦手意識を無くすよう心掛けました。

国語について

特に読解問題の書き取り問題に苦手意識を持っており、始めは解答することすらままならない状態でした。しかし、過去に解いた問題や難易度の低い文章を読むことや、問題を解くときも答えが本文のどの辺りにあるのかをマークすることからはじめたところ、だんだんと回答率が増し、正答率も上がりました。

社会について

Sくんはただ覚えるということ面白みがなく嫌っていたので、歴史は時代の流れにそって、また出来事の背景や雑談など自分の中学時代の先生の話やニュースで得たものを織り交ぜ、出来る限り一つの出来事をいろんな角度から思い出せるよう心掛けました。

算数について

Sくんはもともと算数が好きで問題を解くことを苦にしていまませんでした。なので、基本問題を満遍なく何回も解いてもらい、まずは基礎の徹底に励みました。毎回のテストで点数が安定してきたところで応用題をどんどん解いてもらい、苦手分野を探し、克服することを繰り返しました。

理科について

理科の指導に関してはあまり行えず、Sくんから分からない問題を提示してもらい、その分野の説明を行いました。その中で心掛けたことは、質問されたことの説明をするだけでなく、その前後関係もしっかり理解しているかを確認することでした。

受験直前の指導

中学・高校・大学問わず、受験は過去問の傾向と対策はしっかり行うほうが有利なので、まず四科目の過去問数年分に目を通し、それぞれの科目のテストの特徴を知ることから始めました。算数は分量が多く大問が5つの構成で、大問1,2は小問集合であり、3,4,5は難しめの読解問題です。それぞれの配点は明確ではありませんが、模試などの配点を見るとそれほど一問一問の点差はないようなので、時間をかけてでも大問1,2を正確に解答し、残りの時間で3問を解くように、解ける問題と解けない問題を見分けるよう指導しました。また理科は基礎問題が多く出題されるため、全分野の基礎の徹底と過去問を見て本番で出題される分野の絞り込みを行いました。社会では長文から出題されるので断片的な記憶は避け、話の流れを理解し覚えられるよう心掛けました。

以上